

■ご挨拶 監事ご挨拶

—風力発電への関心と期待に—

日本風力発電協会 監事 足立 慎一
SOMPO リスケアマネジメント株式会社
リスクエンジニアリング開発部 フェロー



はじめに

早いもので監事の任も今年が4年目になります。JWPAの、さらには風力発電業界の健全な発展のため、微力ながら引き続き努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。

風力発電への産業界の関心

日本に発電事業として風車が設置されてから26年とも言われますが、本格的に拍車がかかったのは、おそらくFIT（固定価格買取制度）の導入が国により検討されはじめた2009年以降と思われる。2001年に任意団体としてスタートしたJWPAが現在の組織となったのが2010年であり、こうした時勢の流れに呼応するかのごとく急速に体制拡大、また活動も活発化してきました。私が幹事に就任した2014年5月と比較しても会員数が247社から309社（2017年6月）と3年間で25%増になっていますから、これを見ても風力発電への産業界の関心の高まりが窺いしれます。

ご高承のとおり、風力発電における産業の裾野は広大です。風力発電事業者のように専業で発電に携わっている会社だけでなく、風力に関わる製品やサービスを自社内に取り入れて、新しく風力産業との関わりを始めた会社も少なくありません。JWPAの事業内容別会員リストを見ても、事業者・メーカー・建設・電気・輸送・設備・部品・コンサル・金融・保険・その他、自治体会員も含め、多岐にわたる業種から多くの会社、その社員の方達が関わっていることがわかります。

風力発電に対する国民の期待

バードストライクや健康被害への不安から、風車に対する過激な反対意見をときどきネット等で見かけます。JWPAではそういった懸念に対しても丁寧な説明を発信し続けてきました。あたかもすべての風車が実際にそういった被害をもたらしているかのような扇情的な論調は大変残念でありませんが、大多数の国民の意見はそうなのではありません。賦課金が加算さ

れ電気料金負担が増加したとしても、再エネの拡大に国民の大多数が理解を示していますし、とりわけ風力発電に好意的です。財布の紐に厳しい主婦の方を中心とした消費者団体においても、再エネ電源を重視してエネルギーミックスでもその割合の引き上げを主張しています。

過日、再エネ産業と全く関わりのない方と話をした際に、「化石燃料を輸入に頼らざるを得ず、また原発事故の当事者国である日本が再エネに大きく舵を切らないのは全く理解できない。」と話していました。一方で、「再エネバブルでその社会的意義そっちのけで金儲けのビジネスに走るのは、再エネを支持する消費者への裏切り。風力はそんなことはない信じている。」とも...

海外では原発を廃止し国家政策として風力を中心とした再エネにシフトする国や、自社内の消費電源をすべて再エネで賄っている大企業も少なくありません。こうした動きは、地球温暖化をストップさせ、Save Earthを実現する“地球人”としての責務を果たす動きでもあります。

おわりに

大仰なご挨拶になってしまいました（笑）が、こうした関心と期待に応えるためにも、会員の皆様ともども風力発電の発展に注力していきたいと念じております。監事としてもJWPAの健全な運営をサポートしてまいります。今後ともご協力をお願いします。



【写真】 ふくしま絆